

令和2年度 学校経営の基本方針

館林市立多々良中学校

1 学校経営の概要

(1) 目指す学校像
地域に根ざし、生徒が生き生きと学ぶ学校

(2) 学校の教育目標
「自主」「誠実」「協力」

- 「自主」とは… (自分の可能性に挑戦していく)
- 「誠実」とは… (他者に最大限親切にする)
- 「協力」とは… (互いに信じ合い、支え合う)

行動目標

「凡事徹底」
「ONE TEAM」

(3) 経営方針

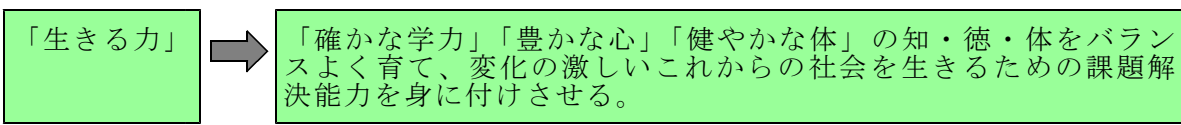
教職員が教育に対する情熱と使命感をもつとともに、保護者や地域から信頼されるために、次の4点を経営の基盤にすえ、一致協力して教育目標の具現化に努める。

- ① 学校教育力の向上
- ② いじめ・不登校対策の強化
- ③ 特別支援教育の充実
- ④ 危機管理体制の強化と服務規律確保の徹底

(4) 重点施策（努力点）

生徒が安心して楽しく学べる学校をつくる

- ① 「学ぶ楽しさ」に導く授業づくり
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「はばプラⅡ」を活用しながら、生徒が活躍でき、分かりやすく達成感のある授業づくり（教師がわくわくする授業）をする。
- ② 「特別の教科道徳」の充実
社会の変化に主体的に対応して生きていくことができる人間を育成するために、生徒の実態に基づき3つの重点項目を設定し、道徳教育推進教師を中心に道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて道徳教育を推進する。
- ③ 人権教育の総合的かつ計画的な推進
生徒の発達段階に即し、各教科等の特質に応じ、全教育活動を通じて、生命や人格を尊重し、他人を思いやるなどの豊かな人間性を育成する。
- ④ 健康の保持増進と体力・運動能力の向上
生徒一人一人が健康で安全な生活ができるように、家庭と連携して学校保健及び学校安全の充実を図るとともに、学校給食を活用した食に関する指導の充実を図る。また、生徒一人一人が運動に積極的に取り組めるよう、教科体育の充実と部活動を奨励し、体力・運動能力の向上を図る。
- ⑤ 自己存在感を育て、規範意識を高める生徒指導体制の確立
生徒指導の3機能（自己存在感・共感的な人間関係・自己決定）を活かした教育活動を展開する。そして、生徒一人一人が、自らの規範意識に基づいて判断し行動できるように、自己の尊厳に気付き、何が正しく何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動がとれるよう継続的な指導を行う。また、問題行動の発生や不登校生徒への対応に対しては、早期に個に応じた指導ができる全校生徒指導体制の確立を図るとともに、関係機関等との連携を強化していく。
- ⑥ 「豊かな指導力」を身に付けるための研修の充実
新教育課程の全面実施に向けての取り組みと、喫緊の教育課題解決に向けた全校体勢構築に向けた研修の充実を図る。また、OJT研修を取り入れ、職員の資質向上と学校の教育力の向上を図る。
- ⑦ 小中連携の一層の充実、家庭・地域との連携推進
学区内小学校、家庭・地域と「生きる力」の基本理念を共有し、相互補完的に協力し合う関係が構築できるよう、学校の教育目標等の情報を可能な限り小学校、家庭・地域に発信したり、要望を学校経営に取り入れたりと、一層の連携を深める。また、生徒一人一人が、郷土のよさを実感し愛着がもてるように、学区内小学校、家庭・地域に学校を公開したり、地域の人たちとの交流を深めたり、地域へ奉仕したりする活動を推進する。



令和2年度 学校経営の基本的な考え方

■ 重点施策（努力点）① **確かな学力（最重要課題）** 「生徒が活躍できる授業づくり」をする。

- 1 取組むこと
 - ①生徒が学ぶことが楽しいと実感できる授業の創造
 - ・導入 「めあて」の明確化・UD化（思考を伴う課題の工夫）
 - ・展開 「柔軟な小集団編成」等手立ての工夫（主体的、対話的で深い学びとなる場の設定）
 - ・まとめ 「振り返り」活動を取り入れる（「できた」「分かった」等の成就感と課題意識）
 - ②はばブラⅡを活用して、「どのように学ぶか」を重視した授業実践
 - ③学習意欲を喚起し基礎学力の定着を図る「家庭学習」「朝学」「補習」「学習トライアスロン」の工夫・改善
- 2 めざす子どもの姿
 - ①「だめ」「できない」から「なぜ」「どうして」へ
周りの人たちとともに考え、学ぶ
 - ②「なぜ」「どうして」から「なるほど」「わかった」へ
新しい発見や豊かな発想

■ 重点施策（努力点）②③ **豊かな心（最重点課題）** 「社会の変化に主体的に対応して生きていくことができる人間を育成する」ために…

- 1 取組むこと かなめ
 - ①**道徳の時間を要とする、学校の教育活動全体を通じた道徳教育の充実**
 - 生徒の実態に基づく3つの重点項目の設定
 - ②学校教育における人権教育の充実
 - 「知的理解」○「人権感覚の育成」○「指導の充実」○「家庭、地域社会及び関係機関との連携」
 - ③豊かな体験活動の充実
 - 環境活動 ○福祉体験活動 ○職場体験活動 ○里沼学習 等
 - ④11の重要課題解決に向けた取組（人権週間）
- 2 めざす子どもの姿
 - ①まず「あいさつ」「返事」、次に「礼儀」
 - ②友達への思いやり、集団生活における規範意識の向上

■ 重点施策（努力点）④ **健康な体** 「健康の保持増進と体力・運動能力の向上」を図るために…

- 1 取組むこと
 - ①**学校安全の充実（学校安全体制の強化）**
 - ②学校保健の充実（保健委員会を中心としたピア・サポートの実施）
 - ③食に関する指導の充実（栄養教諭等による食育指導の推進）
 - ④教科体育の充実と部活動の奨励
- 2 めざす子どもの姿
 - ①心身の健康増進
 - ②望ましい生活習慣の形成
 - ③体力・運動能力の向上

■ 重点施策（努力点）⑤ **生徒指導** 「自己存在感を育て、規範意識を高める生徒指導体制の確立」を図るために…

- 1 取組むこと

「一点集中、全面展開」 「生徒指導の重点目標」の指導の徹底

（共通認識）

- ① さまざまな行動は、「認めてもらいたい」「注目してほしい」という心情、「愛情を注いでほしい」という欲求から生じていることを理解して、指導にあたる。（生徒指導3機能）
- ② その場をしのぐためだけの指導ではなく、行為の背景を理解しようとする姿勢（リフレミング）で生徒に接する。
- ③ 授業や生徒指導で行き詰まったり、悩みが生じたりしたときには臨時の職員会議をもち、現状を報告し合い、共通理解、意思統一を図る。
- ④ 学校での指導の限界、かかわりの限界をはっきりさせ、家庭に教育力がないのであれば、学校で補える部分はどこかを話し合い、関係機関等への協力を要請する。

①生徒指導部会・教育相談部会を核とした生徒指導体制の確立

- ・ **日常：組織的対応** 生徒の変化や心のサイン→早期発見・早期対応
- ・ **問題発生時：チーム対応** 課題の明確化→指導方針・方法の決定→教職員の役割分担

〈対応チームの編成例〉 【注】対応チームは、事案によって柔軟に編成する

ア 学校間の問題が発生

校長、教頭、生徒指導主事、学年生指、学年主任、担任、該当学年職員等

イ 学校・学年・学級内で問題が発生

教頭、生徒指導主事、学年生指、学年主任、担任、該当学年職員等

ウ 部活動内で問題が発生

教頭、生徒指導主事、部活動顧問、学年主任、担任 等

②学校と家庭の相互補完的な協力体制の構築

- ・ 学校と家庭とが、子どもを中心に据えて、相互補完的に協力し合う関係が構築できるようにする。

③関係機関等との連携

- ・ 市教委や教育研究所との報・連・相を密に行うとともに、場合によってはこども福祉課や児童相談所、館林警察署生活安全課との連携を図っていく。

④生徒会活動の活性化

- ・ 生徒自らによる学校規律の再建を促す。
- ・ ボランティア活動や体験活動の機会の充実を図る。

2 めざす子どもの姿

- ①ソーシャルスキル（対人関係をマネジメントする能力）が身に付く
- ②職員と同様、「規律」「節度」「ユーモア」ある生活と行動ができる

■ 重点施策（努力点）⑥ **研修**

「『豊かな指導力』を身に付けるための研修の充実」を図るために…

1 取り組むこと

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善研修の充実
- ②喫緊の教育課題解決に向けた、全校体制による資質向上研修の充実
- ③OJT研修の推進

2 めざす子どもの姿

- ①自分の生き方をよりよいものへと考え追求する生徒
- ②自己有用感をもち何事にも主体的に取り組む生徒

■ 重点施策（努力点）⑦ **小学校、家庭・地域との連携**

「小中連携、家庭・地域との連携推進」を図るために…

1 取り組むこと

- ①相互補完的な協力関係づくりに向けた、学区内小学校、家庭・地域との連携
 - ・ 職員、児童生徒の一層の交流を基本とした「未来サポートプロジェクト」の一層の充実
- ②あいさつ運動、合唱交流、ボランティア活動、地区体育祭への参加、里沼学習、美術館利用等の推進

2 めざす子どもの姿

- ①郷土のよさを実感し、郷土や母校に対する深い愛情や誇りがもてる生徒
- ②地域の行事やボランティア活動等に進んで参加する生徒